

IZUMIKAI

ALUMNI ASSOCIATION NEWSLETTER

DEPARTMENT OF ARCHITECTURE

TOYO UNIVERSITY

2019 / No. 35



東洋大学半世紀！建築学科から人間環境デザイン学科へ

東洋大学名誉教授

元建築学科・人間環境デザイン学科教授

高橋儀平(建築学科7期生) GIHEI TAKAHASHI

皆さん、大変ご無沙汰しています。

2019年3月でライフデザイン学部人間環境デザイン学科を定年退職しました7期生の高橋儀平です。2006年4月建築学科から新設のライフデザイン学部に異動し13年が経ちました。この度編集部から貴重な紙面を頂きましたので、建築学科助手時代から研究室を持ち始めた頃、朝霞キャンパスに移動した頃の思い出を少し記しました。

1972年4月建築学科を卒業後、山崎兌先生の助手をされていた1期生武部實先輩からのお誘いで山崎研究室の助手となった。武部先輩からのお誘いは前年の6月の初めだったと思う。突然「助手をやってみないか」とのお話を頂き、正直びっくり、一瞬戸惑ったのを今でもよく覚えている。何しろ研究室に呼び出されるのは何かと悪い知らせと思っていたからである。当初は大学院を希望していたのだが、よくよく考えてみると授業料を払わないで好きな建築のことが学べるのはいい、という不真面目な根性が少し働いてしまった。

武部先輩からお話を頂いた後、2週間位経った頃であろうか、山崎先生と面談することになった。山崎先生からは、「高橋君は助手の後どうするの」と聞かれ、「2年後に一級建築士を取ったら独立したいと思います」と生意気に答えたのだ。採用する山崎先生がその後の進路が気になったのは、今では良く分かる。実際には大学院への希望も、学力を身につけるといふより、本当にまだ社会で働くには自信がなかったということだけだったので、当時流行りはじめたモラトリアム人間の一人だったのだ。

でも助手をはじめると、学内の事情もわかり、ちょっとずつ面白いことも分かってきた。研究室の夏季合宿の企画や後輩との楽しいレクやコミュニケーションとは別に、工学部助手会長の仕事が数年後に回ってきたのが今思えば最初の転機だった。輪番で建築学科の当番になったのだが先輩助手に引き受け手がなく、一番若い私が助手会長を引き受けることになった。学部長、事務部長、他学科の助手仲間と直接出会う機会が急に訪れたのだ。対人交渉があまり得意ではない私ができるかどうかに関係なく、次から次へと難題とその対応が求められた。当時は山崎先生のサポート、建築設計製図のサポート以外の仕事は少なくある程度時間はあった。振り返るとこの助手会長の任を受けたことが東洋大学にこんなにも長く務めることになった最初のきっかけだったかもしれない。

今でもよく覚えているのが、不定期ではあるが工学部長との交渉であった。学部執行部の方針や対応に触れることは助手ではほとんどない。当時の助手会の最大の懸案事項は助手の身分昇格問題。私は大学院も出ていない身分なのでどうでも良かったのだが、当時すでに給与が頭打ち近くになっていた先輩助手が他学科に複数いて、講師への昇格を希望していた。業績を作らないのに昇格はないだろうと生意気に思いつつも、他学科の助手の立場もあり、限定的昇格(実験担当講師)の交渉を学部長と行った。この時期の助手会は40人を超える大所帯であり、学部でも一定の発言力があつた。

当時の助手仲間でもあり恩師でもある内田雄造先生は、私が助手会長になるころに実験講師とは違う通常の専任講師になった。

山崎先生の元での仕事は授業用プリント作成(これは結構量があつた)、授業での配布、出席の確認で多くの時間は自分の好きなことに充てることができた。残念だつたと思つたのは、先生が週1回の登校だけなので、仕事や研究面でのアドバイスが頂けなかつたことである。他の研究室の教授と助手の関係を羨ましく思つたことも度々あつた。一級建築士を取得し3年目に入った時、山崎先生から「高橋君この後どうするか」と呼び出されたのだが、その頃であつた。

74年4月、内田さんを通じて当時東大助教授の西村秀夫先生から川口の脳性まひ者八木下さんを紹介された。障害者の問題に首を突っ込み始め、もう少し時間が欲しくなつた。「もう少しいます」と簡単に返事をしてしまった。八木下さんとの出会いはそれまでの建築の関りに変化をもたらした。多分建築には一生関わりたいと思つているが、少しぐらい回り道してもいいのではないかと思ひはじめ、でもなぜか違う世界を待っていたようにも思ふ。

実はそれまでは建築界でも数少ない中国通として自己PRをしていたところもある。4年の卒論は、建築法規を担当されていた非常勤講師の早川和男先生の元で学んだ。テーマが「中国の都市と建築」。2階の廊下に研究室ごとの卒論募集テーマが掲示され(記憶がある方もいると思う)、多分誰も来ないと思ひ、一番最初に名前を書いた

記憶がある。

日本建築学会(入会は2年生の時、前田先生の建築計画の授業で「建築雑誌」を紹介され興味を持った。11月に終身会員になる)の図書館に中国関係の文献を探しに行ったが、60年代までの「建築学報」(中国建築学会の定期刊行誌であるが文化大革命で廃刊となつていた)があるのみだつた。神保町の東方書店や日中書院にも出かけてみたが、建築の専門書は歴史的な建造物の文献がわずかあるのみで、あとは新中国の動きばかり。でもゼロからのスタートは面白く、正直かなりのめり込んでしまった。

中国語は助手になって時間に余裕が出てきてから練馬の江古田まで足を運んだ。中国語を学ぶと何故建築をやっているのかと聞かれ始め、次第に周囲の人が関心を持ってくれたように思ふ。早川研の後輩に中国語を遊びで教えたことも何度かあつた。でも今はほとんど忘れてる(笑)。

中国から(今は東アジア全体が研究フィールド)障害者の住環境へと次第に研究活動の中心がシフトしはじめていた時に、有斐閣の「ジュリスト」から国際障害者年特集の対談と障害者住宅に関わる原稿を依頼された。建築関係の人からはほとんど反応がなかつたが専門書への私のデビュー作である。その数年前1978年、八木下さんとスウェーデンの障害者の暮らしを調査する機会を得た。山崎研の院生高井君も誘つた。

今でも感謝なのは、スウェーデン行きのために山崎先生が研究費を工面してくれたことである。山崎先生は、その年の海外研究費の使途が決まっていた安岡先生他の海外研究費を「高橋君に回せないか」と教室会議で交渉してくれたのだ。複数の助教授の先生方の海外研究費を少しずつかき集めて確か65万円ほど集まつたと思う。旅立つ直前には「ちょっと高橋君」と研究室に呼んでくれて、饂飩も出してくれたのである。余談だが、頂いた研究費で旅費の余裕ができ、ニコンの一眼レフカメラも購入できた。スウェーデンではとにかくリバーサル写真を撮りまくつた。その写真は授業、論文や講演で使いまくつてきた。その度ごとに山崎先生のご配慮を思い出して感謝している。

この時、山崎先生は私に関心がないのではなく、私がやっていることをずーっと見ていて下さつたのではないかと思うようになった。内田さんが陰で山崎先生とコンタクトされていたのかもしれない。父を卒業年に失い、母からは父親と思つてと言われたことが思い出された(山崎先生は父より数歳年上)。時々、山崎先生が帰宅するときに鶴ヶ島駅まで誘われる時があつたが、この時はさすがに緊張して話ができる心境ではなかつたことを覚えている。障害者の住環境問題を始めたときに、こっそりと新幹線のための新仙台駅の資料を頂いたことがある。山崎先生は旧国鉄を退職後、建築学科着任と同時に交通建築設計事務所を開設、建築学科の卒業生を毎年採用する鉄道建築の大家であつた。

今先生から頂いた仙台駅の図面がある筈ではあるが、自宅のどこかにあるか探せない。後年日本におけるバリアフリー運動の原点である仙台を訪ねた時に、ここでも山崎先生から新幹線仙台駅の図面を頂いたことが思い出された。

自分で研究室を持ったのは講師になった33歳の時である。最初の年は一番若かったので学生も集まり20人を超える大所帯となった。研究室のイメージは、他大学の学生にも開かれた研究室である。これは助手の時に他大学の研究室から学んだことだ。学生には「優」をやるからボランティアに参加しないか、が口癖だった。私の住まいがある坂戸市で「うさぎとかめ」という障害児者のボランティア活動を主宰していた。毎年春先には東上沿線の大学でボランティア集めのピラ配りの先頭に立っていた。建築と生活は切り離せない。ものや空間をデザインする人は何でもやってみるべきである。

研究室を持って数年後に研究室対抗の野球大会で勢い余って左足首を骨折した。事務課の人には工学部で初めて救急車を呼んだ教員だ、と笑われた。この時は、1か月半あまり前田先生に授業を代行してもらい、その後は松葉杖で授業に復帰した。流石に最初は研究室のある2階までの階段は上がれなく、バリアフリーの研究をしても学生におんぶしてもらったのだ。日本建築学会の関連委員会「ハンディキャプト小委員会」のメンバーにはあつという間に私の「骨折情報」が流れた。学位論文の研究は80年代中頃から本格的に始めた。大学に何年もいて成果が出せていない。大学院を経験していないので正当な研究方法が根本的にわかっていない。自己流が伝わるところとそうでないところがどこかを次第に実感しはじめた頃である。そのこともあり機会あるごとにとにかく学外活動に参加することを心掛けた。建築学会の同じ専門分野の人からは高橋さんは学位論文を何時出すのと言われるようになってしまった。学位は一級建築士と同様に教員の運転免許証のようなものだ。最初はそのこと自体知らなかった。論文テーマや構成が決まりかけては見直しの繰り返し、卒論生と一緒に秩父や福島、長野、新潟を調査して回り完成までは計8年が過ぎていた。運よく東大の高橋鷹志先生に巡り合えて受け付けてもらえたのが44歳の時、ギリギリの年代であった。この時には本当に多くの学生や卒業生に助けられた。

いつも思うのだが、教員は学生を指導しているように思うのだが、実は、我が子と同様、学生から教えられることの方が過半である。例えば、コミュニケーションの仕方、授業の仕方、研究のアドバイスさえそうである、自分の話すことがどれだけ伝わっているのか、話し方や聞き方は学生の立場になっているのか、振り返ると自分が恥ずかしくなる。「教授」という肩書を頂いたが、对学生だけではなく、対社会でもそれらの感覚麻痺が時々起こる。

朝霞への異動は「ある日突然」であった。教授に昇格したばかりの

2003年12月、工学部長の内田さんから教授会の直前に、白山に全面移転した文系5学部の教養跡地、朝霞キャンパスに新たに学部ができる、その学部の一つにユニバーサルデザイン系の学科が構想されているという話であった。どこから出た話なのだろうと当初は軽く受け流していたが、ついに来てしまったのかと心で動揺しながら、一方でユニバーサルデザイン系の学科の可能性について調べ始めていた自分がいた。実はその3年ほど前に工学部に新学科設置のコンペがあり私のユニバーサルデザイン学科提案が落選していたのである。年が明け間もなく、新学部準備委員会委員長の社会福祉学部長古川先生が研究室を訪ねてこられた。当初の学部名称候補は現在のライフデザイン学部ではなく他の名称であったので私は否定的な意見を申し上げた。私自身話を聞きながらも学部異動の決断は出来ていなかった。やはり建築学科の出身者でもあり、何度も悩み、何度も内田さんと議論した記憶がある。同時に新学部、新学科の設置に関わるという魅力も感じていた。大学人としてもゼロから学科を立ち上げる機会に巡り合うことはそんなに多くはないと思った。私自身も新たな領域に挑戦したい気持ちも芽生えていたのである。このテーマは私自身が動かないでだれか動くのだろうという自負もあった。異動の最終決断は内田さんが一緒に異動することだった。そのことを2004年3月に内田さんに伝え、内田さんも考えてみるというご返事だった。

2004年3月末、新学部への参加を古川先生に正式に伝え、教員探しとカリキュラム作りがはじまった。建築学科での経験やトータルな環境創造という観点で、かなり早い段階からその方向性をデザイン3分野（建築、プロダクト、福祉機器）とした。しかし、プロダクトデザインの人材はほとんどわからなかった。NECやソニーのOBを訪ね、他大学のデザイン学科を視察しながら構想を固めていった。この時には大分前に太田先生たちと一緒に工学部のキャンパスプランの研究をした経験が大いに役に立った。そして瞬間に13年が過ぎた。

同じ教員仲間だった松下氏は、同期でもあり泉会の発展に大きな功績を残した人だ。松下氏とは学部教員の懇親会で温泉に行くといつも決まって二人でカラオケ屋さんに行く。鶴ヶ島でも懇親会の後はスナックでカラオケ、鶴ヶ島駅周辺には今でも沢山のスナックがあるがいつも同じスナックに顔を出していた。建築学科の卒業生が10期に達した時、一期生の飯吉さんの呼びかけで卒業生が召集され泉会が作られた。学内に残る私たちは7期の仲間とともに行動した。ゼロから作ることは大変だが、やりがいがある。自分で道を作るには失敗も多いが、他者に教えられることが遥かに多い。そしてまた道を作ってみたいと思うようになる。書きたいこと、書かなければいけないことが沢山あるが今回はここまでとする。このような機会を与えていただいた泉会の編集部各位に深く感謝したい。

IZUMIKAI

- 06-07 ■ 泉会役員挨拶
 - 退任教員挨拶
 - 新任教員挨拶
- 08 ■ 活動計画
- 09 ■ 卒業論文 学科賞・泉会賞
- 10-11 ■ 卒業設計 学科賞・泉会賞
- 12 ■ 会員・準会員合同バスツアー
- 13 ■ 第21回研究室対抗ソフトボール大会・茶話会
- 14-15 ■ 連続公開講演会
- 16 ■ 合同業界研究セミナー
- 17 ■ 加子母木匠塾
- 18 ■ 住宅課題賞
- 19 ■ 公園活用実験
- 20-21 ■ 学生便り
- 22-23 ■ 同窓便り
- 24-26 ■ 支部便り
- 27 ■ 活動報告
- 28-29 ■ 広告
- 30 ■ 役員組織図

泉会役員挨拶



中路 孝子

TAKAKO NAKAJI

泉会 会長

16 期

岩堀建設工業株式会社

この度、泉会会長として就任いたしました 16 期中路孝子です。

会員皆様におかれましては、日頃泉会運営に多大なるご協力、ご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

昨今、建築業界を取り巻く状況はめまぐるしく変化しております。その中で、東洋大学理

工学部建築学科卒業生のネットワークは、大きな力になると確信いたしております。川越市在住、在勤の地の利を生かし、微力ながら一人でも多くの会員の皆様のお役に立てるよう、努力いたしていく所存です。これからも泉会にご支援賜りますようお願い申し上げます。



堀口 芳隆

YOSHITAKA HORIGUCHI

泉会 副会長

18 期

株式会社交建設計

この度、第 19 期泉会副会長を拝命いたしました 18 期の堀口芳隆と申します。第 10 期の鈴木会長当時に三役を務めさせていただきました。

私は、昭和 60 年大学院を修了後(株)交建設計(旧 交通建築設計事務所)に入社し、これまで駅舎、駅ビル、その他の駅関連施設の設計に携わってまいりました。近年は海外案件の受注も増え、台湾新幹線やベトナムの高

速鉄道計画・都市鉄道整備の業務も経験しました。今年度より働き方改革法案が施行され私どものような設計事務所をはじめとする建設業界も変革の時代を迎えております。

このような環境の中、卒業生間や大学との情報交換や在校生への情報提供等、泉会がこれからもその役割が果たせるよう、微力ではありますが尽力する所存です。ご支援、ご協力のほど宜しくお願い致します。



茂呂大輔

DAISUKE MORO

泉会 副会長

33 期

株式会社スタジオコンボ

この度、泉会副会長を務めさせていただきます 33 期の茂呂大輔と申します。東洋大学の OB として、今まで自分が得た経験や知識、建築の楽しさを学生に少しでも還元し、学生の心に熱い火を灯せるよう、尽力させて頂ければと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。現在は、板橋区で設計事務所を開設しております。事務所を立ち上げ今年で 12 年目となりました。住宅系の新築やリノ

ベーションの設計を中心に活動しております。また、2007 年度より東洋大学の非常勤講師を務めさせて頂いており、今年度は春学期 3 年生、秋学期 1 年生の授業を受け持たせて頂いております。今年度からは、泉会の活動を通して、更に泉会会員の皆様のお役に立てよう尽力をさせて頂く所存です。よろしくお願いたします。



裸野 香利

KAORI HADANO

泉会財務

51期

株式会社島村工業

このたび財務を務めさせていただくことになりました 51 期卒業生の裸野です。

松下研究室の時から、泉会の存在は認識しており、学生のために様々な活動をして下さっているんだなという印象をもっておりました。

松下研究室ということもあり、学生のころか

ら泉会の行事を手伝わせて頂くこともありましたが、自分がこんなに早く泉会の運営に係わるとは思っていませんでした。

先輩方と共に在校生、卒業生にとって泉会が有用な会になるよう頑張りますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

退任教員挨拶



富安 亮輔

RYOUSUKE TOMIYASU

助教

この度、東洋大学建築学科を離れることになりました。着任以前に教歴がなかった私は、教員として東洋大学でスタートを切ることができて本当に良かったと思います。右も左もわからないまま学生指導に悪戦苦闘して、時には失敗したりもしましたが、先生方は温かく見守ってくださり、適切なアドバイスをしてくださりました。特に設計助手の木元さん、十河さん、中村さん、鈴木さんには大変お世話になりました。

東洋大学は国公立大学と比べると、どうしても学生数に対する教員数は少なくなってしまいます。そんな中、教員それぞれが専門性を発揮し、

効率的に連携することで、学生に多様な教育を提供できているのだと思います。そして、これをサポートする泉会の存在も大きいように感じました。微力ながらその一員として過ごせたこの4年間は、私にとって貴重な財産となりました。お力添えを頂いたすべての皆さまに、この場をかりて御礼申し上げます。

そして、4月からは東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科に着任いたします。引き続き東洋大学の教員ですので、今後も様々な場面でお世話になったり、お会いしたりするかもしれません。どうぞよろしくお願いいたします。

新任教員挨拶



江 文菁

BUNSEI KOU

助教

今年度より助教に着任いたします江文菁（こうぶんせい）と申します。

国籍は台湾ですが、横浜生まれの台中育ちです。小学2年生の時に帰国し、台湾の大学を卒業してから日本に戻って来ました。

昨年度までは、佐藤総合計画の医療福祉設計室にて病院、看護学校、保育所などの建築設計を行っていました。学生時代は東京大学大学院にて、乳幼児から高齢者まで障がいのある・なしにかかわらず、誰でも利用できる共生ケア

施設の研究を行ってきました。人口減少・高齢化が進む中、住み慣れた地域での継続居住（エイジング・イン・プレイス）がうたわれています。その一方で、グローバル化により私のような外国人が身のまわりに増えていく社会になりつつあります。担当授業はもちろんですが、今まででの設計経験と研究蓄積をもとに、多様性を許容する社会のライフ・ワーク・ケアを学生と一緒に勉強していきたいと思っております。ご指導ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

活動計画

2019年度年間活動計画

月	理工学部（建築学科）「泉会」関連行事	泉会行事、会場、業務活動等
4	新入生オリエンテーション 入学式：4/6	・新入生オリエンテーション会長祝辞(4/4) 11:30～2201教室 ・準会員費集金及び記念品（三角スケール）贈呈（役員・学内幹事） ◇本部役員会 於：川越校舎 ・幹事会案内状メールでの発信
5	1年生対象の茶話会	・総会案内状メールでの発信 ○幹事会：5/18（土）15:00～ 川越校舎 ◇本部役員会
6	学祖祭 6/6	*4年生終身会費納入のお願い（各研究室、ゼミ長会議等） ○「泉会」総会・支部交流会 6/15（土）15:00～ 白山、（未定） 同期会4, 14, 24, 34, 44, 54期、 ・神奈川支部総会
7	講演会	
8	夏休み	・徳島支部総会
9	9月卒業式・学位記授与式 秋学期授業開始	2級建築士講座（協力：日建学院）
10		・泉会バスツアー2019（卒業生準会員交流）
11	こもれび祭 11/3, 4 研究室対抗ソフトボール大会	・第22回「泉会杯」争奪研究室対抗ソフトボール大会（準会員支援） 日建学院協賛
12	冬休み	・建設業界研究セミナー ◇本部役員会
1	授業再開	
2	春休み	・卒計発表会・卒論発表会・泉会賞選考（準会員支援）
3	卒業式・学位記授与式：3/23（月）	・3/23（月）卒業式にて会長祝辞、記念品贈呈、泉会賞授与（準会員支援） 準会員終身会費集金作業 ◇本部役員会

■主な事業活動項目と担当者

事業活動項目	担当役員
・泉会賞選考・授与、卒業生・新入生祝辞	中路 孝子
・新入生オリエンテーション	全員
・就職ガイダンス+懇親会	全員
・幹事会	全員
・定期総会・支部交流・懇親会	全員
・広報・企画（会報『泉会』等）	木元 洋佑 茂呂 大輔
・財務	吉野 広二 裸野 香利
・HP維持管理	中村 純三 茂呂 大輔
・名簿の更新	中村 純三 中村 亮太
・活動マニュアル、事務連絡	中路 孝子 堀口 芳隆

卒業論文 学科賞・泉会賞

卒業論文賞	<p>松本 桃佳 MOMOKA MATSUMOTO 松野浩一研究室</p>	蔵の構造性能評価に関する研究
川越キャンパス同窓会連合会 (旧連合育成会) 優秀卒業研究賞	<p>元吉 裕樹 HIROKI MOTOYOSHI 野澤千絵研究室</p>	地域コミュニティによる未利用地の利活用実態と課題 ～横浜市の小規模な公有地を対象として～
建築学科同窓会 泉会賞	<p>吉永 慧理夏 ERIKA YOSHINAGA 田口陽子研究室</p>	神田神保町における古書店・飲食店の 地理的変遷と立地特性
	<p>佐藤 勇都 YUTO SATO 香取慶一研究室</p>	あと施工アンカーを鉄筋定着に用いた RC床の長期的構造性能の解明に関する研究
卒業論文賞 奨励賞	<p>高垣 拓矢 TAKUYA TAKAGAKI 岡本和彦研究室</p>	賃貸物件サイトにみる日米英の賃貸住宅の 建築的特徴についての研究
	<p>木下 峻吾 SHUNGO KINOSHITA 篠崎正彦研究室</p>	公共空間の動線と滞留位置の選択の関連性 ー東京駅丸の内広場においてー
	<p>村上 和也 KAZUYA MURAKAMI 松本 遼 RYO MATSUMOTO 秋山哲一研究室</p>	分譲マンション専有部分改修工事の ルール整備のあり方
	<p>今泉 一登 KAZUTO IMAIZUMI 李文聰研究室</p>	内蔵CFT式主筋を有する正方形CFT柱の 中心圧縮挙動(その1 高さ幅比が3の場合)
	<p>恩田 時央 TOKIO ONDA 山本 菜歩子 NAOKO YAMAMOTO イムونس研究室</p>	ハウスダスト中のエンドトキシン濃度と 居住者のアレルギー有症率及び環境要因との 関係解明に関する研究

卒業設計 学科賞・泉会賞



渡邊 雅大
MASAHIRO WATANABE

篠崎正彦研究室

卒業設計金賞

伝統が紡ぐ街

- 日本の伝統性による郊外都市風景の再編 -



白井 雅人
MASATO SHIRAI

工藤和美研究室

卒業設計銀賞

ハミダシモノの世界

- 個人的嗜好の風景の分析・応用による建築設計の実験 -



馬場 聖子
SEIKO BABA

工藤和美研究室

卒業設計銀賞

中野犬猫屋敷再建築



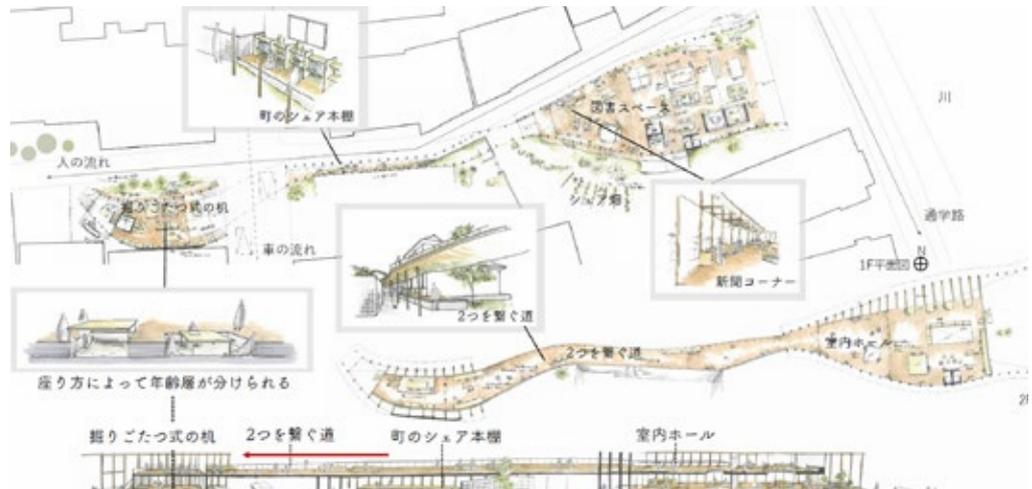


大沼 未季
MIKI ONUMA

伊藤暁研究室



人と町を紡ぐ「仲介役の場」



櫻井 優輔
YUSUKE SAKURAI

伊藤暁研究室



土手の床



神林 彩花
AYAKA KANBAYASHI

工藤和美研究室



集まって暮らすということ

アートの街高崎の一部となるアーティストハウス



会員・準会員合同バスツアー

IZUMIKAI BUS TOUR 2018 IN KARUIZAWA

見学場所

- 千住博美術館
- 軽井沢タリアセン
- 田崎美術館
- 聖パウロ教会
- 聖パウロカトリック協会
- 軽井沢ユニオン教会
- 軽井沢会テニスコート
- 軽井沢ショー記念礼拝堂
- 吉村順三山荘

11月10日に泉会主催の「Izumikai Bus Tour 2018 in Karuizawa」が、建築学科の協力をいただき行われました。

昨年に続き正会員、準会員あわせて約60名が参加し、建築学科からは岡本先生に出席いただきました。車内では見学施設の計画背景や、建築見学の方法を岡本先生に説明いただき、準会員にとっては貴重な時間であったと思われました。

参加者は1年生から大学院生まで各学年に及び、学年間の交流の場としても有効であったと思われました。昨年からはじめました催しですが、参加希望も多く泉会の重要な催しの一つとして定着していきたく考えております。



第21回 研究室対抗ソフトボール大会

優勝 篠崎正彦研究室 チーム

第21回泉会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会が、平成30年11月13日に行われました。例年学年を横断した交流が行われる本大会ですが、今年度は大学院生のチームも加わり、全8チーム12研究室が参加しました。見事優勝した篠崎研究室には泉会からトロフィーと賞金が授与されました。また、準優勝チームには日建学院から日建学院賞と副賞が贈られました。



茶話会

日時

- 2018年5月10(木)

会場

- 学生ホール食堂棟1階

参加者

- 1年生 —— 約70名
- 参加在校生 —— 54名
- 参加教員 —— 6名

上級生の引率で製図室や実験室の見学を行った後、学生ホール食堂棟1階にて懇親イベントを行った。過去の建築雑誌（新建築、住宅特集、GA JAPAN など）を用意し、建築学科の専任教員及び非常勤講師の掲載作品を探す、というゲームを企画し、優勝チームには専任教員に提供していただいた自著を賞品として贈呈した。

新入生にとっては、同級生や上級生と親睦を深めると同時に建築専門誌というメディアの存在を認識したり、教員の名前を知ったりと有意義なきっかけの多いイベントとなった。



連続公開講演会



福島 加津也
KATSUYA FUKUSHIMA

1990年武蔵工業大学（現東京都市大学）工学部建築学科卒業。1993年東京藝術大学大学院美術研究科修了。1994～2002年伊東豊雄建築設計事務所。2003年～福島加津也+冨永祥子建築設計事務所。現在東京都市大学工学部建築学科教授。主な受賞に、JIA 新人賞、住宅建築賞金賞、日本建築学会賞など。主な作品に、中国木材名古屋事業所、柱と床、木の構築など



加藤 耕一
KOUICHI KATO

東京大学・教授。西洋建築史。博士（工学）。1973年東京生まれ。東京大学工学部建築学科卒業、同大学院博士課程修了。主著『時がつくる建築——リノベーションの西洋建築史』（東京大学出版会、2017）でサントリー学芸賞（芸術・文学）、日本建築学会賞（論文）、建築史学会賞受賞。他に『ゴシック様式成立史論』（中央公論美術出版、2012）、『「幽霊屋敷」の文化史』（講談社現代新書、2009）、監訳書に『ロンドン大図鑑』（P. Davies 著、西村書店、2017）、『近代建築理論全史 1673-1968』（H. F. Mallgrave 著、丸善、2016）などがある。現在、10+1website にて「アーキテクニクな建築論を目指して」連載中。



藤森 照信
TERUNOBU FUJIMORI

建築家・建築史家。昭和21年長野生まれ。東北大学建築学科卒、東京大学大学院博士課程修了。東京大学生産技術研究所教授、工学院大学教授を経て、現在は、東京大学名誉教授、工学院大学特任教授、東京都江戸東京博物館館長。専門分野は建築史。45才より設計を始め今に至る。



日時

- 第1回
2018年7月27（金）
- 第2回
2018年10月18（木）
- 第3回
2018年11月22（木）

モデレーター

伊藤 暁

SATORU ITO

東洋大学建築学科准教授

篠崎 正彦

MASAHIKO SHINOZAKI

東洋大学建築学科准教授

今年度も東洋大学理工学部建築学科主催の連続公開講演会が開催され、「時間と建築」というテーマに沿って、建築家の福島加津也氏、建築史家の加藤耕一氏、建築家・建築史家の藤森照信氏の3名にご講演いただきました。

福島氏は、ご自身が建築を考える際に、なにを手がかりに設計しているのかという話を、実際の建築4作品を例に具体的な設計手法などを交えてご講演いただきました。特に、過去の事例から手法を抽出して現代建築に援用する際に、どのようなことに注意しているのかということには学生も関心があったようで、今後の設計の手がかりになりました。

加藤氏には、ご自身の著書『時がつくる建築』を中心に、様々な事例を交えながら建築の歴史を外観していただきまし

た。歴史的に見てもリノベーションやコンバージョンといった建築行為が非常に有意義なことであるといった仮説はこれから建築に携わる学生を非常に勇気づけるものでした。

藤森氏は、建築史家・建築家というふたつの側面から、どのように建築を考え、設計しているのかを藤森氏独自の視点でご講演いただきました。時折笑いも交えながらの非常に和やかな講演会になりました。前2回同様に質疑の時間や懇親会で質問は絶えることがありませんでしたが、全ての質問に丁寧にお応えいただきました。また、本学科には建築史の専門家が不在であることから、歴史家による専門的な講演は非常に有意義なものになりました。

合同業界研究セミナー

12月15日に建築学科と泉会共催の合同業界研究セミナーが、泉会会員の社員を有する企業を中心に約60社の協力を得て開催されました。

近年就職状況は学生側に有利な状況にあります。特に建設業界は設計コンサル系から施工業者にいたる各業種において極めて重度な人手不足の状況にあります。

このような状況下において、企業側の情報を直接受け取れる機会は重要なものです。学生にとって、実社会との初めての係りであり、これからこの業界で働く上でのスタートで

あったと思います。

参加された各企業の先輩方には面談において、さらにその後の懇親会での様々な情報提供をいただきありがとうございました。

合同業界研究セミナーは泉会の重要なイベントと考え、今後も進めてまいります。またより多くの企業と学生の接する機会を設けることを検討してまいりますので、会員の皆様のご協力をお願いします。



加子母木匠塾

加子母木匠塾は毎年8月の2週間に岐阜県は中津川市、旧加子母村で過ごし、木造建築物の制作を通して木造建築や林業、木造の流通、山間地域の暮らし等を体験しながら学ぶ活動で、設計、積算、施工、管理を地元の工務店さんに教わりながら学生が主体となって行っています。参加大学は東洋大学の他、京都大学、京都工芸繊維大学、京都造形芸術大学、立命館大学、金沢工業大学、名城大学、滋賀県立大学の8大学で約300名の学生が参加しました。去年度の10月に今年度の活動体制へと引き継ぎが行われ、各大学の最高学年を中心とした幹部たちが毎月加子母を訪れ、幹事会を行っていました。

今年のテーマは「交」。約二週間滞在し、6チームに分かれ、地元の工務店等の指導により、ログハウスのリノベーション、宿泊施設用家具・什器の制作、松屋の母屋の屋根裏、離れ、福崎公園のパーゴラ、道の駅のマウンテンバイク倉庫の制作に取り組みました。

東洋大学は浦江先生を顧問に活動しており、1～4年生の有志による学生を募り、1年生7名、2年生11名、3年生7名、4年生3名の計28人が参加しました。多くの学生が全工期参加し、みんなで共同生活をしながら加工を進

めていきました。

今年、東洋大学は舞台峠にあるログハウスのリノベーションをしました。舞台峠にはログハウスが8棟あります。その中の一つを宿泊用の施設から、受付などを行う管理棟へと改修するために「大机」「作業棚」「デッキ」の三つの制作物を制作しました。ログハウスに元々あった2段ベッドに使われていた掛け材を使い、棚を仕上げました。また、腐食の激しかったデッキを解体し、階段と既存のものより広い受付スペースとを兼ねたデッキを設けました。どれも金物を使用せず木材のみを使い、腰掛けあり継や相欠継などの伝統的な工法で仕上げました。子供達がキャンプに来たり、部活動の合宿に来たり、いろいろな用途でつかわれる上で、もっと使いやすく、子供達に木の良さを伝えられる制作物になりました。また、他のログハウスのリノベーションの依頼も来ており、次に繋がる大きな一歩になりました。

私たちは普段お世話になっている加子母の人たちに恩返しできるものを制作したいと思っています。東洋大学をはじめ木匠塾の活動の定や情報がFacebook、Blog、Twitter、Instagramで更新されていますので、制作物に興味がある方は是非ご覧ください。

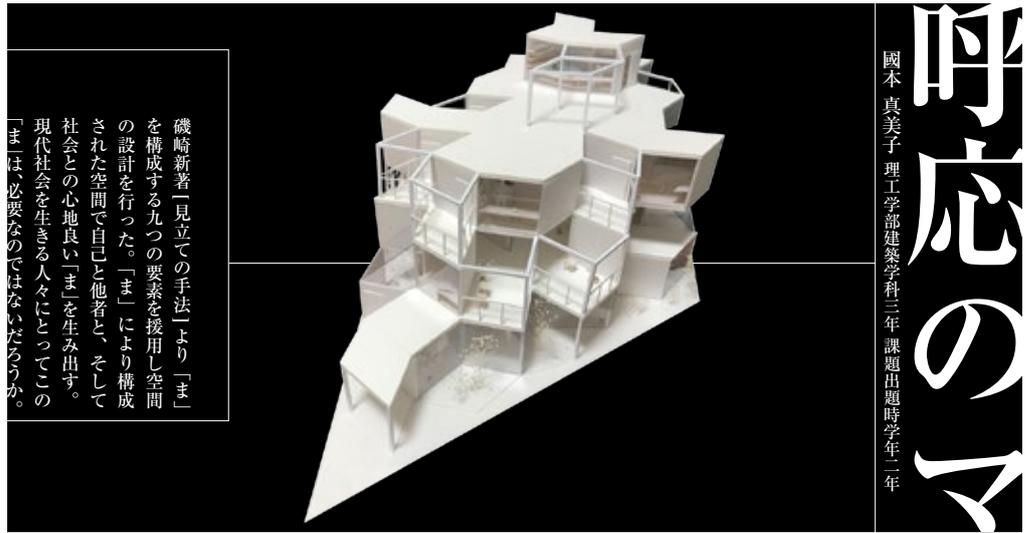


住宅課題賞



國本真美子
MAMIKO KUNIMOTO

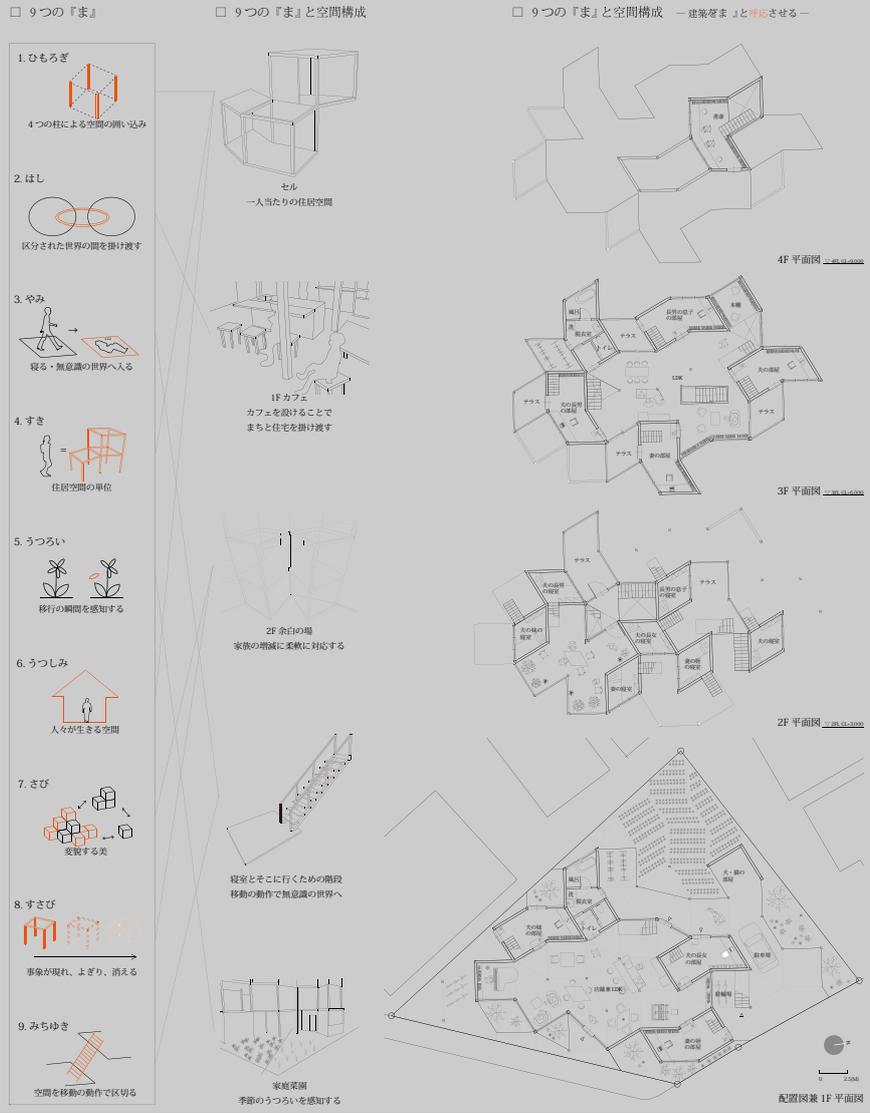
東洋大学建築学科
4年



磯崎新著「見立ての手法」より「ま」を構成する九つの要素を援用し空間の設計を行った。「ま」により構成された空間で自己と他者と、そして社会との心地良い「ま」を生み出す。現代社会を生きる人々にとってこの「ま」は、必要なのではないだろうか。

国本真美子 理工学部建築学科三年 課題出題時学年二年
呼応のま

住宅課題賞 2019



公園活用実験

授業名

■まちづくり計画演習
(3年生対象)

担当教員

野澤 千絵

CHIE NOZAWA

東洋大学建築学科教授

田口 陽子

YOUKO TAGUCHI

東洋大学建築学科准教授

鈴木 淳平

JUNPEI SUZUKI

東洋大学建築学科
設計アシスタント

協力

毛呂山町

昨年度までの空き家課題ではなく、今年度は、毛呂山町にある都市公園や町有地を対象に、パブリックスペースを活かした将来都市像の提案を行いました。提案に際し、11月20日、前久保中央公園において、現状の公園の使われ方に関するアンケート調査や、通常は禁止されているボールや用具を使ったアクティビティ、高齢者によるパーソナルモビリティ（今回は、セグウェイ式）など、各グループが検討した活用実験を行い、可能性や課題の調査を行いました。また毛呂山町や町民から、ピザやコーヒー等の飲食販売やスケートボードの練習なども行われ、普段、ほとんど使われていない公園が多く

の参加者で賑わいました。この実験を受け、毛呂山町では継続的実施の検討など、新たなまちづくりとしての機運の醸成に寄与しているものと考えられます。学生たちは、毛呂山町のパブリックスペースの可能性や課題に対する理解が深まったと共に、これまであまり活用されてこなかった都市公園等の利活用方法を提案することができました。最終的に提案書を町長に謹呈しました。まちづくり計画演習では、今後も、地域との連携により、実際のまちづくりの現場に触れながら、提案スキルを向上させるための演習に取り組んでいく予定です。



学生便り



林 奈々緒

NANAO HAYASHI

東洋大学建築学科
3年

今までとこれから

今までを振り返り、今年度は初めて建築に触れることができました。これまでは漠然と「建築を学ぶ」ことしかできておらず、そこから次に繋がられなかったと思います。

設計課題から建築に触れたということ、新たに友人、教授、講師の方との交流から吸収したこと。この二つから自分の知識の無さ、考えの甘さを自覚し、やっとスタートラインに立てたと思います。

さらに、設計課題では悩んだことも沢山あり、そのたびに壁に当たりました。

しかし、努力した分得るものも沢山ありました。知識や技術だけでなく、努力して成果が出た

ことが一番大きかったです。まだ自分の未熟なところはありますが、成果が現れたことで自信になり、次の進路に繋がられると思います。大学生活も折り返し地点に差し掛かり、進路や将来に向けて真摯に向き合う時期になり、自分の関心や興味を持ちながら努力していきます。また、これは一人で達成できることではないと思います。色々な考えの人との交流から学んだことですが、周りからの助けがあって、切磋琢磨している仲間との競い合いがあって今があると感じているからです。感謝やチャレンジ精神を忘れずに努力したいと思っています。



八木 美由樹

MIYUKI YAGI

東洋大学建築学科
4年

建築を通して経験したこと

興味のある事を仕事にしたいと思った私は、ピアノ、吹奏楽と音楽漬けだった自分から一旦距離を置き、建築学科に入りました。興味があると言っても建物や歴史は好きでしたが、知識があるわけでもなく、覚悟があるわけでもなく、資格が取れるからとしか考えていませんでした。入学後も何をすれば良いかわからず、なんとなく過ごす毎日でした。そんな私を変えたのは1年の夏、木匠塾で出会った先輩方でした。この活動や設計に打ち込んでいる先輩方から聞く話は刺激的で色々な考えを持っており、そんな大人な先輩方に憧れました。設計課題が始まり、色々な

人の考え方が知りたいと思い、沢山エスキスをしていただきました。その先生方や先輩方の幅の広い考え方に、建築の世界がとても深く面白く感じられました。私が考えた案に対して頂いた言葉は千差万別で混乱しそうになる時もありましたが、考え方をすることで自分の中で派生し次第に案が深まっていくことが面白く感じたのを覚えています。またバルセロナ留学で初の海外を経験し、日本と西洋の建物の違いに圧倒させられた私は、名建築を始め多くの建築空間に魅せられ、建築を更に学んでいきたいと強く思うようになりました。



渡邊 雅大

MASAHIRO WATANABE

東洋大学大学院
建築学専攻 1年

揺さぶられながら生きることは善か

2年生の秋、非常勤講師の塚田修大先生に出会いました。建築はよりクリアでかつ背景が概念的に新しいものであり、その上でそれが美しいものでなければならないことを知りました。建築は私が思っていたよりも、莫大な思想に裏打ちされたものであるということに気づきました。

3年生の春、篠崎正彦准教授に出会いました。「設計の仕事をしていて飢え死にした人間は今までに一人もいない、寝床が無くなれば私の家に来なさい」といった、生きていく上で大切なことを教えていただき、当時設計の道に進むか決めかねていた私に、道を切り開いて下さいました。そして私は篠崎研究室の門

を叩きました。

4年生の春、総合設計演習という授業で伊藤暁准教授に出会いました。「近代」というものに対して外側からではなく、内側からそれを掘り起こしていくように、未来を切り開いていくような先生の設計者としての強い意思に人生で最大の衝撃を受けました。

そして私は今、東洋大学大学院の伊藤研究室に在籍しています。すなわち、私の軸は変わらない一本が通っているのではなく、それが人との出会いにより絶えず流動的に大きく変化していると言えます。このことを皆さんはどう評価しますか？



鈴木 郁弥

IKUMI SUZUKI

東洋大学大学院
建築学専攻 2年

大学院生になって

「後世で笑われるかもしれないが、今は必要だ。」学部3年生のころに参加した京都の仁和寺改修見学で、説明を担当してくれた方の言葉がいまだに頭から離れない。礎石下の鉄筋コンクリート製の耐圧盤がどうしても計算上は必要だ。という趣旨の説明だったと思う。現代の科学は必ずしも真ではない。日本の耐震指針に関しても、震災を被る度に塗替えられてきた。現代においてもそれは変わらず、発展の途中と言えよう。つまり、指針や本をいくら読み漁ったところで真にたどりつくことはできないという見方もできる。もちろん過去の方たちの知見は重要であり、私も常に触れているが、このような考えのもと私は、常に

自分で見て、自分なりの見解を持つよう心がけている。私の所属する研究室では、建物の構造調査や実験など、実物と触れ合える活動が多い。私はこれらの活動をなによりも大切にしている。机上の世界だけでは及ばない、考えるきっかけを与えてくれるからだ。これらの活動に多くの時間が割ける大学院の時間は、非常に価値のあるものであり、充実している。私の活動が指針を大きく変え、伝統木造建築物の歴史的価値を保全するという大それたものになるとは思えないが、真ではないかもしれない科学に対して、少しでも自分なりの真を追求したい。

同窓便り



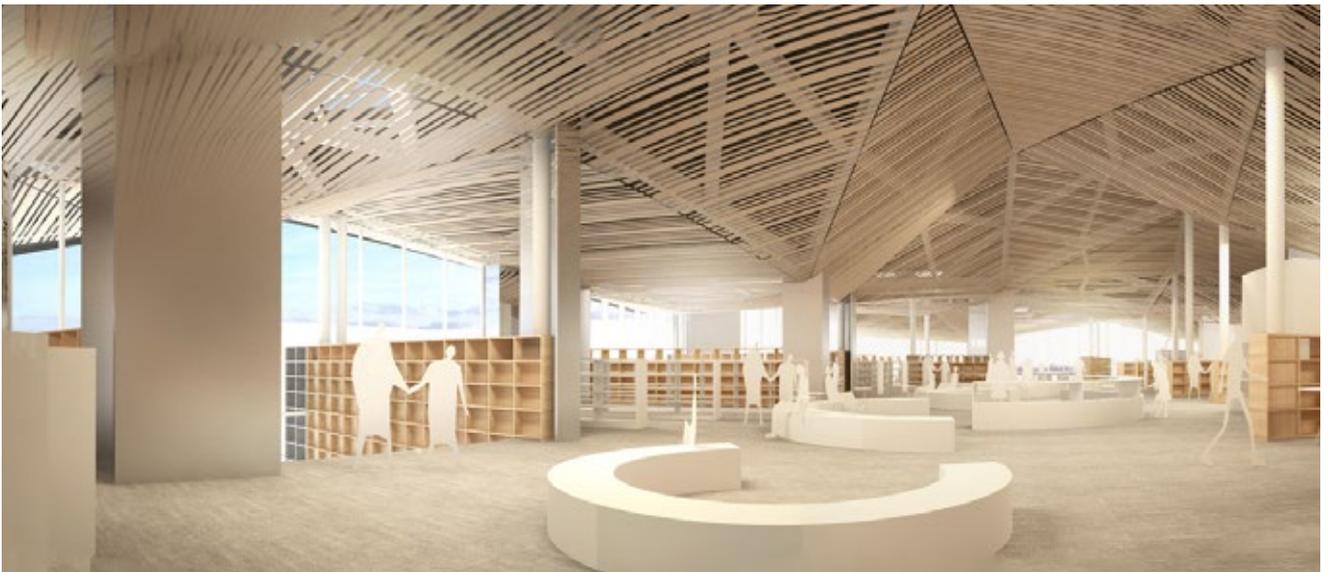
伊藤 麻理

MARI ITO

32期
UAO株式会社

那須塩原市の公共図書館が、ようやく建て方までたどり着きました。オリンピック景気の影響でボルト調達为数ヶ月遅れるなど、このタイミングでの地方の公共建築に携わるものとして、とても毎日が刺激的です。工期の遅れに伴い図書館の開館が延長になりましたので、UAOとして「図書館の運営の中身まで」も議論に参加する「建築家としては少し踏み込んだ使命」が舞い込んで参りました。那須塩原市が最後に図書館を作ったのは昭和62年。当時の図書館は「第二世代図書館」と分類され、「バランスの取れた人口構成の市民に公平に図書に触れる機会を提供する」と

いう、いわば「本がたくさん並んで入れれば事足りた」比較的わかりやすい時代でした。そして現代。IT時代・少子高齢化時代・人口奪い合い時代は、図書館利用者の人口構成も複雑ですし、いわば「第五世代図書館」としての力の入れどころも多様な所作が求められてきます。運営内容を詰めれば詰めるほど、当初設計の微調整が顕在化し、本当に納得のいく公共施設を作ることが、いかに難しい仕事なのかを身を以て経験しています。日本一の図書館を目指すという思いの熱い専門家と共に、「日本一の図書館」を目指します。



支部便り「神泉会」神奈川県支部



河野 洋

HIROSHI KOUNO

神泉会 会長
3 期

問合せ先

神泉会事務局
AXIS PLANNING
原崎 久人

ACCESS

〒231-0048
横浜市中区蓬萊町
3-104-4-803

TEL

050-3723-2935

FAX

045-262-8761

泉会の活動として、4月21日(土)「しらき会」と6月16日(土)の「泉会総会」に参加し、神泉会の総会を、6月17日(日)に、横浜桜木町ワシントンホテル 9階 会議室(ローズ)で(10名の出席)で行い、その後、校友会神奈川県支部の総会に合流しました。

第12回ヨコハマタウンウォッチングを10月6日(土)に、「称名寺・金沢文庫」周辺の散策を行いました。当日の参加は15名で、金沢文庫駅から称名寺まで約20分天気は暑いぐらいの陽気でした。称名寺は、山号が金沢山(さんたくさん)宗派が真言律宗です。鎌倉の極楽寺が同じく真言律宗の寺です。北条氏の一族である金沢(かねざわ)北条氏の祖、北条実時が開基し、居室内に建てた持仏堂(阿弥陀堂)がその起源とされています。実時は、鎌倉幕府の初代執権者北条時政の曾孫で、四代執権(北条経時)、五代執権(北条時頼)の側近として、また八代執権(北条時宗)の補佐も務めたようです。学問に秀でた実時は、多くの蔵書・絵画等を集め、金沢文庫の資料として、保管されています。鎌倉時代には、いろいろな興味が湧きます。長崎県小浜市の3期の佐藤博美氏と、平成30年7月21日(土)と平成31年3月3

日(日)に横浜で、新潟県新発田市の7期の仁瓶俊一さんとは、平成30年10月6日(土)の「称名寺・金沢文庫」周辺散策と平成30年10月20日(土)の「田部井健二作陶展」(故内田雄造先生の義兄)等で情報交換を行いました。

12月8日(土)横浜西口の松竹で太田邦夫名誉教授・原雅敏(2期)・堀井一典・河野洋(3期)・石橋正義・高橋慶継・野村みさ子・美尾文明(7期)・勝田蕪一・渡辺文昭(9期)・原崎久人(10期)・斎藤賢司(11期)・土木1期の浅野正毅さん・土木12期の吉田由多可さん・原崎さんの友人の井崎秀則さんの15名で忘年会を行い、楽しい時間を過ごしました。

校友会神奈川県支部の1月3日の箱根駅伝応援新年会を始め、地区会等の行事に参加し、また、神奈川県建築士会の研修バス旅行や、見学会等に参加し、情報の収集を行いました。

神泉会の行事に参加する仲間を募集しています。平成31年(2019)の第13回ヨコハマウォッチングは、『大塚・歳勝土遺跡公園』散策です。9月28日の土曜日の予定です。連絡先は左記まで



支部便り「静泉会」静岡県支部



島村 芳三

YOSHIZOU SHIMAMURA

静泉会 会長
14 期
太田研究室

問合せ先

Shimamura建築研究所

「静泉会」（泉会静岡県支部名称）は飲み会以外での活動はありませんが、還暦を迎えたメンバーも多いので今後の人生をバラ色にすることを企んでいる方々の話をその飲み会では一方的にお聞きしています。一昨年の初冬、わが東洋大学の名誉教授にもなっていた日本文学・文化の巨匠であるドナルド・キーンさんの講演会「聞かせて、キーン先生！」を成功裡に終わらせることができました。当日は、わが東洋大卒業生の皆さんにも参加して頂き、充実した時を経験させて頂きました。

そのドナルド・キーンさんは今年の2月24日の早朝、96歳で永眠なさいました。私は講演会の主催者であり、キーンさんの養子であるキーン誠己さんの友人という立場で、4月10日のお別れの会に出席させて頂きます。その会の発起人には、わが東洋大学の竹村学長をはじめ、小澤征爾・ロバートキャンベル・瀬戸内寂聴（すべて敬称略）など日本文化を牽引されている方々が名を連ねていますので、そのお付き合いがいかに多彩であったことが伺われます。講演会終了後、ドナルド・キーンさんから「過去の講演会の中で静岡が最も良かった」とのお言葉を直接頂いた思い出が頭をよぎりますが、頑張ってきたことに対する最大のご褒美として自分の宝として記憶に残そうと思っています。そして綺麗な富士山の姿をお見せできたことは、ドナルド・キーンさんへの最大のお礼と想い、富士山には毎日感謝しています。

話しは変わりますが、私は東洋大学では工学

部キャンパス内にありました第一学生寮に4年間お世話になりました。その第一学生寮は既に大分前に取り壊されていて、今ではその第一学生寮の記念碑が建っているだけです。その頃お世話になった先輩や後輩達から昨年突然連絡を頂き、40年以上ぶりに所属学科に関係なく東京駅近くで集まりました。その長い歳月のブランクは再会すると全く感じさせなく、楽しい時間を過ごすことができました。会いたいと思っていた大学一年生時の同室の奴は、機械工学科だったのですが、その会には参加しなかったので、インターネットでその彼の所在を後日探し当てました。同室のその奴は遊び付きで酒を飲むこととジャズ聞くのが大好きだったのですが、なんと機械の世界では有名な「ミネベア・ミツミ」という大会社の専務をやっていました。恵比寿駅の近くにある居酒屋で再会をしたのですが、飲んで楽しんでいる数時間、なんと店の表で黒塗りの大きな車と運転手が待っているのです。昔の遊び付きの片鱗を感じさせず、全世界の社員を含めると10万人を超えるという大会社の専務として頑張る姿を見て嬉しく、そして誇らしく思いました。別れ際、わが東洋大学の学生さんは遊びの中から色々なことを学び、バランス感覚の優れた彼みたいな学生さんを一杯排出してくれると嬉しいなと感じた一瞬でした。

静泉会会長 島村芳三（14期 太田研）

支部便り 徳島県支部



戸出 敏夫

TOSHIO TODE

徳島支部 支部長
12 期

問合せ先

支部長 戸出敏夫

TEL

090-8973-1007

徳島支部の総会は、7月7日土曜日に校友会徳島県支部及び阿波踊り東洋大学連の総会に続いて開催しました。議事では、事業報告・決算報告が行われ、①役員選出、②事業計画(案)、③人集め・終身会費(2万円)納入増大策について審議されました。特に終身会費(2万円)納入増大策については、泉会を維持させていくために、重要かつ早期に解決すべき問題と捉えています。また、若い会員の出席勧誘や会員各位の結束力を今こそ発揮していかなければならないと感じています。閉会后、校友会・甬水会と合流し懇親会が開催され、近況報告・情報交換等親睦を深めました。校友会・甬水会各県支部と合同で協力し、箱根駅伝応援や花見などを開催しています。

結成31周年! 阿波踊り東洋大学連

本年、31回目を迎えます。毎年大学のご支援を頂きうちわを作成しています。毎年8月13日14日の2日間演舞場等で踊りながら観客の方に配布しています。本年は、大学からのご援助が頂けなくなり、うちわの作成ができなくなりそうです。大学の考え方や方針がありますので、仕方ありません。学生等の受入体制は今まで通り努力していきます。学生に楽しむ祭りのあつさを体験して頂くため、1989年(平成元年)結成したこの東洋大学連を伝統としていつまでも残していくことが私たちにできる使命であると考えています。皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

(支部長 戸出敏夫)



活動報告

平成30年度年間活動報告

月	理工学部（建築学科）「泉会」関連行事	泉会行事、会場、業務活動等
4	新入生オリエンテーション4/2～6、 入学式：4/6 授業開始：4/9	・新入生オリエンテーション会長祝辞(4/5) 11.30～2201教室 準会員費集金及び記念品（三角スケール）贈呈（役員・学内幹事） ◇本部役員会4/5(木) 於：川越校舎（スケジュール・会報関係） 平成30年度活動報告，平成30年度活動計画及び予算 他） ・幹事会案内状メールでの発信
5		・1年生対象の茶話会：5/10（木）18：00～（学科主催）場所：食堂 ・総会案内状メールでの発信 ○幹事会：5/26（土）15：00～ 川越校舎
6	学祖祭 6/6	・4年生終身会費納入のお願い（各研究室、ゼミ長会議等） ○「泉会」総会・支部交流会 6/16（土）15：00～ 白山 浦水会館301 懇親会17：00～19：00 白山 125周年記念館（8号館1階） 同期会3, 13, 23, 33, 43, 53期、 ・神奈川支部総会
7		・
8	夏休み 8/7～9/20	・徳島支部総会
9	9月卒業式・学位記授与式：9/15（土） 秋学期授業開始 9/21（金）	・2級建築士講座（4年生対象）：建築学科と共催（協力：日建学院）
10		◇役員会10/13(土) 於：川越校舎（建設業界研究セミナー、バスツアー 他）
11	こもれび祭 11/3, 4	・第21回「泉会杯」争奪研究室対抗ソフトボール大会：11/7（水） ・泉会バスツアー2018：11/10（土）in 軽井沢（卒業生準会員交流）
12	冬休み 12/25～1/3	・建設業界研究セミナー：12/15（土）
1	授業再開 1/4	
2	春休み 1/29～3/31 ・卒計発表会・卒論発表会	・泉会賞選考（準会員支援） ◇役員会：1/22（火）（卒業式、入学式、会報関係 他）
3	卒業式・学位記授与式：3/23（土）	◇役員会：3/23（土）13：00於：川越校舎（入学式、会報関係 他） ・3/23（土）卒業式にて会長祝辞、記念品贈呈、泉会賞授与（準会員支援） 準会員終身会費集金作業

■主な事業活動項目と担当者

事業活動項目	担当役員
・泉会賞選考・授与、卒業生・新入生祝辞	星野 洋介
・新入生オリエンテーション	全員
・就職ガイダンス+懇親会	全員
・幹事会	全員
・定期総会・支部交流・懇親会	全員
・広報・企画（会報『泉会』等）	木元 洋佑 須貝 重義
・財務	木元 洋佑 中村 亮太
・HP維持管理	田中 伸明 中村 亮太
・名簿の更新	吉野 広二 田中 伸明
・活動マニュアル、事務連絡	中村 純三 中路 孝子

広告

日建学院では、泉会ご協力の下 現役東洋大生から卒業生までこれからも全力で応援致します!

現役生へ朗報!!

建築士 学内講座

将来の「1級建築士」へのアプローチとして、「泉会」と「東洋大学理工学部建築学科」が主催する、2級建築士取得支援講座を、提携する「日建学院」が特別学費で実施します。



東洋大生 3大特典

- ①資格講座 : 建築士・宅建士など、学生割引を適用!
- ②建築系書籍 : 建築設計資料・住宅建築など、学生割引を適用!
- ③その他 : 講演会・セミナーへの無料招待
学内催事での献本など



卒業生へ朗報!!

東洋大学理工学部建築学科同窓会〈泉会〉提携学費及び講座一覧

Web講座

- Web学習の特徴**
- 遠隔地や仕事等の理由でなかなか通学できない方でも学習可能。
 - 自分のライフスタイルに合わせて学習を進められる。

No	講座名	一般学費(税別)	泉会会員提供学費(税別)
1	1級建築士 学科Web講座	300,000円	150,000円
2	2級建築士 学科Web講座	300,000円	142,000円
3	宅地建物取引士 Web講座	100,000円	80,000円

通学講座 ※最寄の日建学院で受講できます。

- 通学講座(集合型学習)の特徴**
- 多人数制なので競争意識が芽生え学習意欲が高まる。
 - 決められたスケジュールの中で効率的に学習が進められる。

No	講座名	一般学費(税別)	泉会会員提供学費(税別)
4	1級建築士 学科本科(通学)講座	650,000円	590,000円
5	1級建築施工管理技士 学科(通学)講座	250,000円	209,000円

【期間】2020年3月31日まで ※消費税は別途となります。*学費改定の場合、改定額に準じます。



*画像は全てイメージです。

あなたの「夢」応援します。

日建学院

全国直営109校 最寄校の利用が可能です。
まずはお気軽に川越校までご連絡下さい。

【お申し込み・お問い合わせ】

日建学院 川越校 事務局

〒350-1123 埼玉県川越市脇田本町15-13東上パールビル6F
川越駅西口駅前 TEL:049-243-3611



TBS系報道番組
「サンデーモーニング」で
TVCM放送中!

YOUTUBEの
公式チャンネルでも
公開中です

その一本の線から、
街は生まれる。

2018~2014年度
1級建築士 学科+設計製図試験

全国ストレート合格者合計 8,080名中/
総合資格学院受講生 5,004名

全国ストレート合格者の**6割以上**は
総合資格学院の受講生!

61.9% 合格者
占有率
(2018年12月20日現在)

2018~2014年度
1級建築士 設計製図試験

全国合格者合計 18,464名中/
総合資格学院受講生 10,427名

全国合格者のおよそ**6割**は
総合資格学院の受講生!

56.5% 合格者
占有率
(2018年12月20日現在)

2018~2014年度
1級建築士 学科試験

全国合格者合計 23,360名中/
総合資格学院受講生 11,804名

全国合格者の**2人に1人以上**は
総合資格学院の受講生!

50.5% 合格者
占有率
(2018年9月4日現在)

総合資格学院は
1級建築士試験も
2級建築士試験も
「日本一」の合格実績!

No.1

おかげさまで
「1級建築士も2級建築士も合格実績日本一」を達成しました。
これからも有資格者の育成を通じて、
業界の発展に貢献して参ります。

総合資格学院 学院長 **岸 隆司**



2018年度 **2級建築士 設計製図試験**

資格取得スクールとして**No.1**
合格実績を達成しました!

総合資格学院当年度受講生合格者数 **2,179名**

全国合格率54.9%に対して総合資格学院
基準達成当年度受講生合格率

87.1%

※全国合格者数は(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※全国合格者数5,997名中、総合資格学院合格者2,179名・日建学院合格者2,137名・その他合格者1,681名 ※併記:合格実績および合格者の内訳は2018年12月14日現在のものです。 ※出典: <http://www.koketec.co.jp/nikkei/index.aspx>

8割出高・8割宿題提出・模擬試験2ランクA
達成当年度受講生703名中/合格者612名
(2018年12月18日現在)

2018年度 **1級建築士設計製図試験 卒業学校別実績**

卒業生合格者20名以上の学校出身合格者のおよそ**6割**は総合資格学院当年度受講生です。

卒業生合格者20名以上の学校出身合格者合計2,170名中、総合資格学院当年度受講生合計1,243名

当学院受講率 **57.3%**

学校名	卒業合格者	当学院受講者数	当学院受講率	学校名	卒業合格者	当学院受講者数	当学院受講率	学校名	卒業合格者	当学院受講者数	当学院受講率
日本大学	209	105	50.2%	京都工芸繊維大学	38	28	73.7%	東洋大学	18	10	55.6%
東京理科大学	117	70	59.8%	東海大学	38	27	71.1%	北海道大学	29	9	31.0%
芝浦工業大学	100	60	60.0%	東北大学	37	13	35.1%	北海道大学	29	13	44.8%
早稲田大学	96	45	46.9%	首都大学東京	36	23	63.9%	広島大学	28	19	67.9%
近畿大学	77	43	55.8%	大阪府立大学	35	17	48.6%	中央工学校	27	16	59.3%
明治大学	75	49	65.3%	横浜国立大学	34	19	55.9%	室積工業大学	26	9	34.6%
神戸大学	70	40	57.1%	東京電機大学	34	18	52.9%	鹿児島大学	25	17	68.0%
千葉大学	66	43	65.2%	立命館大学	34	24	70.6%	摂南大学	24	17	70.8%
工学院大学	58	29	50.0%	金沢工業大学	33	19	57.6%	千葉工業大学	24	15	62.5%
東京都市大学	54	37	68.5%	東京工業大学	33	16	48.5%	大阪大学	23	13	56.5%
大阪工業大学	50	32	64.0%	福岡工業大学	33	16	48.5%	東北工業大学	23	14	60.9%
名城大学	49	32	65.3%	神戸川大学	32	19	59.4%	愛知工業大学	22	11	50.0%
京都大学	47	20	42.6%	熊本大学	31	18	58.1%	豊橋義塾大学	21	12	57.1%
法政大学	46	30	65.2%	名古屋大学	31	21	67.7%	広島工業大学	21	15	71.4%
九州大学	45	27	60.0%	信州大学	30	15	50.0%	大分大学	21	12	57.1%
関西大学	42	20	47.6%	新潟大学	29	15	51.7%	三重大	20	14	70.0%
名古屋工業大学	39	26	66.7%	前橋工科大学	29	21	72.4%				

※卒業生合格者数は、卒業生合格者数(公財)建築技術教育普及センター発表によるものです。 ※総合資格学院の合格者数は、「1級建築士」
「2級建築士」の2科目合計です。 ※上記の合格者数は、卒業生合格者数(公財)建築技術教育普及センター発表によるものです。 ※併記:合格実績および合格者の内訳は2018年12月14日現在のものです。 ※出典: <http://www.koketec.co.jp/nikkei/index.aspx>

2018年度 **設備設計1級建築士 修了審査**

総合資格学院当年度通学受講生修了率 **77.1%**

総合資格学院当年度通学受講生35名中/修了者27名
総合資格学院当年度通学受講生以外の受講者修了率36.2%
総合資格学院当年度通学受講生以外の受講者304名中/修了者110名
(2018年12月19日現在)

2018年度 **1級建築施工管理技術検定 実地試験**

全国合格率37.1%に対して
総合資格学院基準達成当年度受講生合格率 **77.2%**
7割出高・7割宿題提出・実地模擬試験(2)得点率6割以上
当年度受講生632名中/合格者488名 (2019年2月12日現在)

2018年度 **1級土木施工管理技術検定 実地試験**

全国合格率34.5%に対して
総合資格学院基準達成当年度受講生合格率 **72.2%**
8割課題提出当年度受講生133名中/合格者96名 (2019年1月29日現在)

1級・2級 建築士 **構造設計1級建築士** **建築設備士** **1級・2級 管工事施工管理技士** **1級・2級 建築施工管理技士** **1級・2級 土木施工管理技士** **宅地建物取引士** **インテリアコーディネーター** **賃貸不動産経営管理士**

【法定講習】 監理技術者講習/一級・二級・木造建築士定期講習/管理建築士講習/宅建登録講習/宅建登録実務講習/第一種電気工事士定期講習



スクールサイト
www.shikaku.co.jp
スクールサイト
www.sogoshikaku.co.jp

川越校 TEL.0120-130-900
〒350-1123 埼玉県川越市脇田本町 10-16 BOビル 1F

役員組織図

＜泉会＞ 役員組織図 第19期 (幹事会メンバー：委任可)

2019. 6. 30

[本部役員]

役職	氏名	担当業務
会長	中路 孝子	総括
副会長	堀口 芳隆	広報・企画
	茂呂 大輔	
	木元 洋祐	
大学担当役員	裸野 香利	
財務	吉野 広二	財務
事務局長	中村 亮太	総務

[会長]

中路 孝子
岩堀建設工業
TEL049-225-5111

[顧問(歴代会長)]

飯吉 伸一 (1, 2)
飯吉建築設計
TEL 03-5313-2244

長谷部 浩 (3, 4)
雄設計
TEL 03-3987-8151

佐藤 博美 (5, 6)
佐藤 U A 設計
TEL 0957-74-5116

松崎 吉夫 (7, 8)
松崎吉夫建築研究所
TEL 03-5995-5777

松本 祐二 (9)
TEL 03-3940-8027

鈴木 澄夫 (10)
TEL 03-3647-5745

白旗 定幸 (11)
マナ建築設計室
TEL0422-28-7068

草野 律子 (12)
草野建築設計事務所
TEL049-227-8176

長峰 勝芳 (13)
大谷工業
TEL03-3494-3731

鶴田 謙一朗 (14)
黒川建設㈱
TEL090-9140-2512

細谷 功 (15)
スタジオ4設計
TEL090-3200-3729

中山 秀明 (16)
中山秀明建築研究所
TEL049-240-2677

寺山 誠 (17)
島村工業
TEL048-775-1419

星野 洋介 (18)
交建設計
TEL090-9106-4905

[支部担当]

勝瀬 義仁
タック
TEL048-474-2727

[支部]	支部長	事務局
■北海道	本間 寿幸 (15) 011-241-9538	武内 一郎 (5) 011-513-0711
■新潟	江添 武 (1) 025-243-2870	風間 秀和 (31) 025-284-2266
■茨城	柴田 弘道 (1) 0292-21-8111	奈良 昌樹 (32) 029-822-4377
■岡山	吉川 仁和 (18) 086-214-4111	石川 哲郎 (16) 086-284-6816
■福岡	古賀 英雄 (3) 092-662-2098	井出 昇 (8) 092-626-0737
■徳島	戸出 敏夫 (12) 0883-22-2225	板原 智 (19) 088-675-2252
■静岡	島村 芳三 (14) 054-273-0713	植田 竜司 (27) 054-221-3127
■神奈川	河野 洋 (3) 045-251-3796	原崎 久人 (10) 050-3723-2935
■群馬	空席 ()	関口 敏之 (30) 027-352-5168
■山梨	飯窪 功児 (8) 055-283-1157	三枝 信人 (9) 0553-47-1653

吉野 広二 (27)
吉野建築造形工房
080-5513-9504

堀口 芳隆 (18)
交建設計
03-3553-9112

茂呂 大輔
スタジオ4 建築
デザイン事務所
090-4075-7904

裸野 香利
島村工業
048-775-1419

中村 亮太 (46)
東洋大学建築学科
090-5997-5624

[幹事] (*:非常勤講師)

1期	桑野 進 (桑野デザイン)	03-5936-8011
2期	田畑 貞和 (グット・アイズ建築検査機構)	03-3362-0517
3期	上川 勇治 (街並工学研究所)	0492-52-1661
4期	松村 丘 (日本施設管理)	03-5340-5580
5期	岡崎 勇二 (岡崎工務店)	03-3982-2924
	元持 秀人 (自営)	090-1771-0974
6期	小野塚 勉 (建物保全支援機構)	0480-33-5185
7期	坂巻 一男 (草野建築設計)	048-729-6970
8期	草野 律子 (草野建築設計)	049-227-8176
9期	中村 純三 (岩堀建設工業)	049-225-5111
10期	橋本 秀世 (橋本秀世建築研究所)	03-3993-2755
	小川 任信 (小川任信建築設計)	090-3097-9027
11期	森田 和巳 (森田建築設計室)	049-282-2888
12期	中山 秀明 (中山秀明建築研究所)	049-240-2677
13期	橋本 雅夫 (プリンスホテル)	090-2563-9368
14期	星野 洋介 (交建設計)	090-9106-4905
15期	小岩井文夫 (エフピーエス・ミヤマ)	03-3639-7603
16期	中路 孝子 (岩堀建設工業)	049-225-5111
17期	松田 孝幸 (バルシップ)	03-3234-3303
18期	高杉 雄一 (高廣建設)	048-266-5618
	堀口 芳隆 (交建設計)	03-3553-9112
19期	松岡 正樹 (自営・名古屋)	090-3452-6465
20期	寺井 明彦 (鈴木組)	090-9682-4670
21期	深川 繁久 (JALファシリティー)	03-3747-6435
22期	瀬沼 健二 (大成建設)	03-5625-0250
23期	市川 建治 (埼玉西部環境保全組合)	090-7823-0442
24期	増田 順久 (フジタ)	0429-93-3296
25期	田口 隆一 (ARU田口設計工房)	048-786-4284
26期	長谷部 勉* (H. A. S. Market)	03-6801-8777
27期	吉野 広二 (吉野建築造形工房)	049-265-7061
	齊藤 宏昭 (足利工業大学)	090-9347-0445
28期	桜井 一郎 (リブラン)	03-3972-0072
	松岡 大介 (ボラス暮らし科学研究所)	048-987-9111
29期	野村 哲也 (日本ランドデザイン)	03-3346-2233
	池田 麗子 (川越市役所)	049-224-5961
30期	伊藤 良 (バンデミック)	03-5464-8930
	田中 伸明* (A T E L I E R N)	0279-75-7820
31期	深町 仁至 (志木市役所)	048-483-1039
32期	伊藤 麻理* (U A O)	03-3498-3060
	馬場 崇容 (日建ハウジングシステム)	03-3268-5862
	須貝 重義* (シグアーキデザイン)	03-6459-0108
33期	茂呂 大輔* (スタジオ4 建築デザイン事務所)	090-4075-7904
34期	管 学 (ソリトンスシステムズ)	0242-73-2738
	辰澤 茂和 (病院システム)	03-5396-3921
35期	大矢 晋 (隈研吾建築都市設計事務所)	03-3401-7721
36期	神田 剛 (長谷工アーベスト)	03-5440-5813
37期	太田 森政 (日本総合研究所)	090-3809-6291
38期	大場 奈央 (自営)	090-9155-3184
	中村 友子 (研究生)	090-7689-1174
39期	菅野 知速 (さいたま市役所)	048-829-1111
	那賀島大地 (構造計画研究所)	090-5316-8965
40期	保里 賢治 (日構シーエスエス)	048-653-2048
	森 智香子 (レオパレス21)	070-2198-4142
41期	新井 真吾 (中島工務店)	090-4369-0028
42期	寺内 央 (教育施設研究所)	090-4747-6078
43期	古川 明広 (090-7236-1344)	
	氏家麻里子 (さいたま住宅検査センター)	048-621-5111
44期	吉野 大輔 (大成建設)	080-5553-7529
	橋本 文 (峠گرام)	090-7277-5470
45期	若山 範一 (大和リース)	080-2023-1140
	滝島 信吾 (国際航業)	080-6503-6026
46期	大山 宗之 (飛島建設)	080-1848-4513
	青柳佳央里 (090-4951-8299)	
47期	折田 現太 (049-239-1414)	
	佐藤 豪太 (大林組)	080-4291-5432
48期	加能 良祐 (昭栄建設)	090-2540-9174
	梓澤 亜美 (大学院博士)	080-3129-6989
49期	高岩 裕也 (岩堀建設工業)	070-2194-9328
	為貝 恵実 (タトアーキテツツ)	080-1305-8898
50期	安田 陽 (K A P)	080-1208-3794
	篠田 将 (設計領域)	090-2221-0305
51期	内海 友博 (S A N A A)	080-5878-6806
	土屋 柚貴 (サンエイコー東日本)	080-6647-3114
52期	柳田 実庸 (大和ハウス工業)	090-2239-5291
	久保 翔平 (大学院2年)	090-8494-7413
53期	鈴木 郁弥 (ミサワホーム)	080-9389-3997
	原 慧矢 (大学院1年)	
54期	渡邊 雅大 (大学院1年)	
	植竹 淳史 (現役4年)	
55期		
56期		
57期		
58期		

[監査]

村上 雅章 (15期)
(丹青TDC)

内田 公夫 (17期)
泉建築舎 (090-9640-9128)

本部連絡先

〒 350-8585
埼玉県川越市鯨井2100
東洋大学理工学部建築学科「泉会」
049-239-1679 (川越キャンパス同窓会室)

本連絡先は泉会活動以外には使用しません

- [連絡方法と幹事の業務]
1. 幹事会及び支部交流会の連絡方法は原則として事務局よりメールまたはFAXで連絡し、出欠の確認をする。
 2. 本部役員は受持ちの各期幹事と相互に連絡をとる。
 3. 各期の幹事は同期の卒業生への連絡を行う。
 4. 各期の幹事は、同期の卒業生の住所等の把握、印刷物の発行の協力、会費の納入状況の把握と徴収の協力を行う。
 5. 幹事は会報の”同窓生だより”執筆者を選考し原稿の依頼をする。

IZUMIKAI

ALUMNI ASSOCIATION NEWSLETTER
DEPT. OF ARCHITECTURE
TOYO UNIVERSITY
2019 / No.35

発行

泉会幹事

デザイン・編集

木元洋佑(42期)

鈴木一太郎(43期)

泉会HP

リニューアル準備中

